



2年前、この連載でムクドリが集団ねぐらを取り上げた際、近年本当にムクドリが集団ねぐらが市街地に増えたのか調べる必要があると書きました。それから2年、この秋から冬、大阪府内のムクドリが集団ねぐらを探しています。そこで今回は、進行中のムクドリが集団ねぐら探しを見てみましょう。テーマは、ムクドリが集団ねぐらの位置の変化です。

●大阪府内のムクドリが集団ねぐら探し

2014年9月から12月10日までの間に、大阪府内で18ヶ所の集団ねぐらが確認されました。日本野鳥の会大阪支部(1992)には、1990年12月～1992年1月に確認された集団ねぐら21ヶ所が示されています。同じ場所の確認を順次進めています。今のところ同じ場所に集団ねぐらは確認されていません。20年も経てば、集団ねぐらの位置は随分変わるようです。

ところで、ムクドリが夕方集まっていたという情報ももらって確認に行っても、ムクドリが集団ねぐらがないことがしばしば。どうしてそんなことになるんでしょう？

●ムクドリが集団ねぐら探しで振られる理由

情報を確認に行ったのに、集団ねぐらを見つけれなかった例をいくつか紹介しましょう。

阪急北千里駅前(吹田市)：8月に集団ねぐらがあったと聞き、10月19・23日に行きましたが見つからず。ここは夏だけなのかもしれません。

大阪市立大学：秋から冬に数千羽規模の集団ねぐらができるので有名です。しかし、11月2日に確認できず。11月24日夕方に大学近くの鉄塔にムクドリが多数集まっていたと聞き、3日後確認に行きましたが、鉄塔にも大学にもムクドリの大群は見当たらず。わずか数日で全然状況が変わってしまうようです。

泉北高速鉄道光明池駅(堺市)：納家(2014)は、9月8日に3000羽以上のムクドリが集まっていたが、堺市職員がムクドリの追い払いを行い、翌日以降、激減したと報告しています。しかし、10月24日に再び1000羽以上が集まっているという情報があり、11月1日に確認に行きました。しかし集まったのは、約500羽だけ。再び追い払われたのかも知れません。

このようにムクドリが集団ねぐらの位置は、年によって季節によって、時には数日で変わるようです。集団ね

ぐらに集まるムクドリの個体数はどのように変化するのはのでしょうか？

●ムクドリが集団ねぐらの消長

奥田・奥田(2008)は、大阪市生野区が集団ねぐらに集まるムクドリの個体数を、秋～春に3日に1回以上という高頻度で、2シーズン調べています。400mほどの範囲に5ヶ所の集団ねぐらがあり、それぞれのねぐらと、全体での就時個体数の季節変化が示されています。

その結果を見ると、2シーズンとも11月～12月に個体数が多くその後減ります。ただ1月以降の個体数は、2年目は1年目の平均約4倍にもなっています。また、個々のねぐらの個体数は日々随分と変化します。数百羽いた次に0羽ということまであります。ただ個体数の変動は、5ヶ所をまとめるとゆるやかになります。さらに広い範囲でみると、どうなるのか気になります。

この調査結果から、ムクドリが寝る場所は日々けっこう変化することがうかがえます。とすると、情報ももらった次の日に行っても、ムクドリがいない事もあり得ます。調査しにくい鳥です。

●野外で実際に観察してみよう

夏にはツバメの集団ねぐらの観察会が開かれますが、ムクドリが集団ねぐらの観察会が開かれることはあまりありません。でも、ねぐら入りの際のムクドリの乱舞は、ツバメ以上にダイナミックで見応えがあります。先入観を捨てて、是非一度見に行ってみて欲しいと思います。

大阪府内のムクドリが集団ねぐらの情報はまだまだ集めています。ねぐらの位置が分からなくても、夕方、ムクドリが集まっているのを見かけたら、ぜひ観察日と詳しい観察場所(所番地まで)を、ぜひお知らせください。

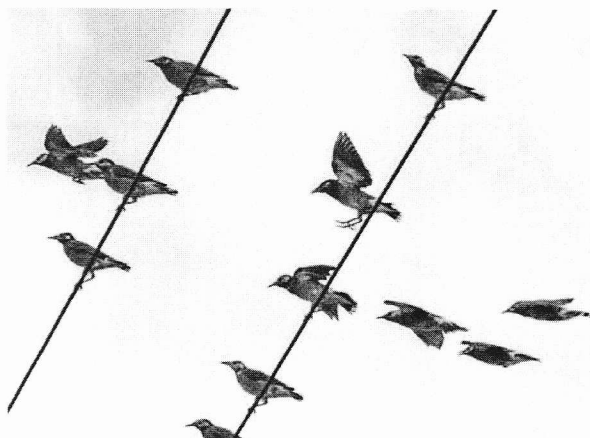


図1：ムクドリの群れ(納家 仁)

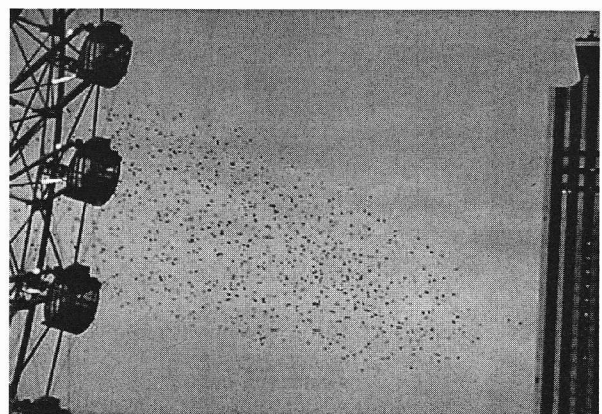


図2：りんくうタウン駅南東側のムクドリのおねぐら入り。約7200羽が乱舞した。2014年11月11日、米澤里美氏撮影。

●引用文献

- 奥田幸江・奥田幸男(2008) 大阪市におけるムクドリの就時個体数の秋から春にかけての季節変化. *Strix* 26: 135-145.
- 納家 仁(2014) 堺市光明池駅前パステロタリーのケヤキ、むくどり通信(234): 21.
- 日本野鳥の会大阪支部(編)(1992) 都市鳥調査報告書. 大阪府農林水産部緑の環境整備室, 大阪. 34pp.

和田 岳(わだ たけし)：本会幹事、大阪市立自然史博物館学芸員。HP「和田の鳥小屋」
<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/wada/wada-index.html>